

法学研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

◆人材養成に関する目的

法学研究科は、政治学・法学について、分野ごとの体系的・専門的研究を通じ基本理論を学ぶとともに、現代的領域の研究や実務能力の養成を目指すことをとおして、より高度な専門性とともに、現代社会における有用な高度な理論と実務能力を身につけて、高度に専門的な職業や研究職などにおいて活躍する人材を育成することを目的とする。

政治学専攻

◇修士（政治学）

目指すべき人材(物)像

法学研究科政治学専攻博士課程（前期）は、国際関係・地域研究、政治過程、政治史・政治思想について、基幹科目の履修により、社会の諸問題に対する高度の考察・分析能力と実務能力の養成を目指すことをとおして、高度かつ専門的な知識、豊かな総合力をもって柔軟に対応することができる能力を修得し、研究者のほか公務員、国際公務員、企業の企画・総務部門、ジャーナリスト、NGO スタッフといった専門職などにおいて活躍する人材を育成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

- 政治学について専門性の高い知識を体系的に獲得し、社会における政治学的諸問題を客観的に調査する技能を修得する（知識・技能）。
- 政治学的な視点から、説得力のある議論を展開できる（思考力・判断力・表現力）。
- 社会における政治学的諸問題に対応できる柔軟な応用力を修得する（思考力・判断力・表現力）。
- 文化や思想の多様性を尊重し、他者との協働を通じて、社会における政治学的諸問題の解決に向けて主体的に行動することができる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

（編成・運営方針）

- 政治学に関する高度な専門的知識を修得し、国際化・複雑化が進む現代社会に生じる多様な社会事象や問題を的確に分析し、説得力のある議論ができる能力を身につけた人材を養成するために、国際関係・地域研究、政治過程、政治史・政治思想の3つの分野を柱とした標準的な科目群によって構成されるカリキュラムを設置する。

（学力の三要素 / 領域）

- 社会における政治学的諸問題の理解に必要な基礎知識と調査技能を修得するために、必修科目として「政治学基礎」を設置する（知識・技能）。
- 「国際関係科目・地域研究科目」については、理論と実践のバランスに配慮しつつ、また、地域的なバランスを可能な限り考慮しながら科目を設置する（知識・技能）。

- 「政治過程科目」については、現代政治過程の「アクター」と「アリーナ」の2つの次元においてバランスの取れた科目を設置する（知識・技能）。
- 「政治史科目・政治思想科目」については、「洋の東西」と「歴史と思想」の2つの軸においてバランスに配慮した科目を設置する（知識・技能）。
- 上記の標準的な科目群に加え、「文献研究」、「大学院特殊講義」、「テーマ研究」を設置し、学問動向の変化に迅速に対応することのできるカリキュラムとする（知識・技能）。
- 学生は、それぞれの専門に対応する科目群にウエイトを置きつつも、政治学全体としてのバランスに配慮しつつ選択的に履修をすることにより、社会における政治学的諸問題に対応できる柔軟な応用力を修得する（思考力・判断力・表現力）。
- 修士論文の執筆過程において指導教員から論文のテーマ・論文作成方法などについて個別的な指導を受ける「論文指導」を通じて、研究者や専門職として活動する際に求められる基本的な能力を修得する（思考力・判断力・表現力）。
- 修士論文執筆過程では、執筆の現状などを中間報告会で報告する中で、関係する教員から指導を受けることが義務付けられていることから、自分の考えを主体的かつ論理的に表現する力を修得することができる（主体性・多様性・協働性）。

◇修士（比較政治学）

目指すべき人材(物)像

法学研究科政治学専攻博士課程（前期）は、国際関係・地域研究、政治過程、政治史・政治思想について、基幹科目の履修により、社会の諸問題に対する高度の考察・分析能力と実務能力の養成を目指すことをとおして、高度かつ専門的な知識、豊かな総合力をもって柔軟に対応することができる能力を修得し、研究者のほか公務員、国際公務員、企業の企画・総務部門、ジャーナリスト、NGO スタッフといった専門職などにおいて活躍する人材を育成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

- 政治学について専門性の高い知識を体系的に獲得し、比較の手法を駆使することにより、地球規模で発生する問題を客観的に調査する技能を修得する（知識・技能）。
- 政治学的な視点から、説得力のある議論を展開できる（思考力・判断力・表現力）。
- 地球規模で発生する問題に対して創造的な対応をするために、学術や実務の場で英語を適切に運用できる（思考力・判断力・表現力）。
- 文化や思想の多様性を尊重し、他者との協働を通じて、地球規模で発生する問題の解決に向けて主体的に行動することができる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

（編成・運営方針）

- 政治学に関する高度な専門的知識を修得し、地球規模で発生する問題に対して創造的な対応のできる未来のリーダーとしての能力を身につけた人材を養成するために、英語で授業が行われる日本やアジアの法と

政治に関する必修科目、国際関係・地域研究、政治過程、政治史・政治思想の3つの分野を柱とした選択科目などの標準的な科目群によって構成されるカリキュラムを設置する。

- 学生は、前期課程の2年間のうち、同志社大学と海外提携大学でそれぞれ一定期間修学し、すべての修了要件を満たすことにより、両大学からそれぞれ学位が授与される。

(学力の三要素 / 領域)

- 必修科目については、英語で授業が行われる日本やアジアの法と政治および政治学の方法論に関する科目を設置する (知識・技能)。
- 選択科目については、国際関係・地域研究、政治過程、政治史・政治思想の3つの分野を柱として、バランスの取れた科目を設置する (知識・技能)。
- 学生は、必修科目の履修をとおして政治学の基礎知識と調査技能を修得したうえで、政治学全体としてのバランスに配慮しつつ選択科目を履修をすることにより、地球規模で発生する問題に対して創造的な対応のできる未来のリーダーとしての能力を修得する (思考力・判断力・表現力)。
- 修士論文の執筆過程において、指導教員から英語で執筆する論文のテーマ・論文作成方法などについて個別の指導を受ける「論文指導」を通じて、研究者や専門職として活動する際に求められる基本的な能力を修得する (思考力・判断力・表現力)。
- 英語での修士論文執筆過程では、執筆の現状などを中間報告会で報告する中で、関係する教員から指導を受けることが義務付けられていることから、自分の考えを主体的かつ論理的に表現する力を修得することができる (主体性・多様性・協働性)。

私法学専攻

◇修士 (政治学)

目指すべき人材(物)像

法学研究科私法学専攻博士課程 (前期) は、民法・商法・民事手続法・労働法・知的財産法・国際私法などの私法学科目について、基幹科目の履修により、現代社会において有用な高度な理論と実務能力の養成を目指すことをとおして、高度かつ専門的な知識、豊かな総合力をもって柔軟に対応することができる能力 (高度のリーガルマインド) を修得し、研究者のほか、公務員、企業の法務部門、司法書士や税理士といった専門職などにおいて活躍する人材を育成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

- 研究者や法律専門職としての活動の基盤となる、私法学を中心とする高度な専門的知識を獲得し、自らの課題についての基本的な調査・研究手法を修得する (知識・技能)。
- 研究者や法律専門職として直面する多様な法律問題に対応するための、総合的な判断力や柔軟な応用力を修得し、説得力のある法的議論ができる (思考力・判断力・表現力)。
- 国際化・複雑化が進む現代社会に生じる様々な社会事象をめぐる法的な問題に関して、多様な関心をもつ教員・学生と協働しながら主体的に分析する態度を身につける (主体性・多様性・協働性)。

◆カリキュラム・ポリシー

(編成・運営方針)

- 私法学を中心とした法律学分野に関する高度な専門的知識を修得し、国際化・複雑化が進む現代社会に生じる多様な社会事象や問題を的確に分析し、説得力のある法的議論ができる能力を身につけた人材を養成するために、基幹科目と共通科目によって構成されるカリキュラムを設置する。

(学力の三要素 / 領域)

- 基幹科目と共通科目を履修することにより、各法律分野に関する高度な専門的知識を修得する。また、個別的・時事的問題を取り上げる「大学院特殊講義」、外国法へのアクセス能力を養成するための「文献研究 (英語・ドイツ語・フランス語)」を設置する (知識・技能)。
- 主として演習形式で行われる基幹科目と共通科目を通じて多様な法律問題に対して総合的かつ柔軟な応用力をもって対応するとともに、説得力ある法的議論を展開するための能力を修得する。また「ケース・スタディ」科目を設置することにより、判例の分析をとおして高度な法的分析能力の養成を図る。そして国際化・複雑化が進む現代社会に生じる多様な問題に対して法的な観点からアプローチし分析を行う、より高度な能力を修得することを目的として、海外の法学系大学院と連携してダブル・ディグリープログラムおよび単位互換プログラムを推進する (思考力・判断力・表現力)。
- 他方で、修士論文の執筆過程において指導教授から個別的な指導を受ける科目である「論文指導」を通じて、研究者や法律専門職として活動する際に求められる基本的な能力を修得する (思考力・判断力・表現力)。
- 公務員、企業の法務スタッフ、司法書士、税理士、弁理士などの国内外で法律に携わる専門的職業に就くことを目指す人材にとって特に有意義な科目として、専門性の高い重要課題を取り扱う「ビジネス関連科目」を設置する。また海外の法学系大学院と連携したダブル・ディグリープログラムおよび単位互換プログラムをとおして、国際化・複雑化が進む現代社会に生じる多様な問題に対して法的な観点からアプローチし分析を試みる基本的な能力を修得する。これらは基本的に学生の主体的な取り組みの中で行われるもので、受講希望の学生が自らの関心や進路計画に応じて選択し履修する (主体性・多様性・協働性)。
- 修士論文執筆過程では、執筆の現状などを中間報告会で報告する中で、関係する教員から指導を受けることが義務付けられている。この過程で、自分の考えを主体的かつ論理的に表現する能力を身につける (主体性・多様性・協働性)。

公法学専攻

◇修士 (法学)

目指すべき人材(物)像

法学研究科公法学専攻博士課程 (前期) は、憲法・行政法・税法・刑法・国際法などの公法学科目および法哲学・法思想史・英米法・法社会学・法史学などの基礎法学科目について、基幹科目の履修により、高度な理論と実務能力の養成を目指すことをとおして、高度かつ専門的な知識、豊かな総合力をもって柔軟に対応することができる能力 (高度のリーガルマインド) を修得し、研究者のほか、公務員、企業の法務部門、

司法書士や税理士などといった専門職、国際公務員などにおいて活躍する人材を育成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

- 研究者や法律専門職としての活動の基盤となる、公法学を中心とする高度な専門的知識を獲得し、自らの課題についての基本的な調査・研究手法を修得する（知識・技能）。
- 研究者や法律専門職として直面する多様な法律問題に対応するための、総合的な判断力や柔軟な応用力を修得し、説得力のある法的議論ができる（思考力・判断力・表現力）。
- 国際化・複雑化が進む現代社会に生じる様々な社会事象をめぐる法的な問題に関して、多様な関心をもつ教員・学生と協働しながら主体的に分析する態度を身につける（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

（編成・運営方針）

- 公法学科目および基礎法学科目を中心とした法律学分野に関する高度な専門的知識を修得し、国際化・複雑化が進む現代社会に生じる多様な社会事象や問題を的確に分析し、説得力のある法的議論ができる能力を身につけた人材を養成するために、基幹科目と共通科目によって構成されるカリキュラムを設置する。

（学力の三要素／領域）

- 基幹科目と共通科目を履修することにより、各法律分野に関する高度な専門的知識を修得する。また、個別的・時事的問題を取り上げる「大学院特殊講義」、外国法へのアクセス能力を養成するための「文献研究（英語・ドイツ語・フランス語）」を設置する（知識・技能）。
- 主として演習形式で行われる基幹科目と共通科目を通じて、多様な法律問題に対して総合的かつ柔軟な応用力をもって対応するとともに、説得力ある法的議論を展開するための能力を修得する。また、「ケース・スタディ」科目を設置することにより、判例の分析をとおして高度な法的分析能力の養成を図る。そして、国際化・複雑化が進む現代社会に生じる多様な問題に対して法的な観点からアプローチし分析を行う、より高度な能力を修得することを目的として、海外の法学系大学院と連携してダブル・ディグリープログラムおよび単位互換プログラムを推進する（思考力・判断力・表現力）。
- 他方で、修士論文の執筆過程において指導教授から個別的な指導を受ける科目である「論文指導」を通じて、研究者や法律専門職として活動する際に求められる基本的な能力を修得する（思考力・判断力・表現力）。
- 公務員、企業の法務スタッフ、司法書士、税理士、弁理士などの国内外で法律に携わる専門的職業に就くことを目指す人材にとって特に有意義な科目として、専門性の高い重要課題を取り扱う「ビジネス関連科目」を設置する。また、海外の法学系大学院と連携したダブル・ディグリープログラムおよび単位互換プログラムをとおして、国際化・複雑化が進む現代社会に生じる多様な問題に対して法的な観点からアプローチし分析を試みる基本的な能力を修得する。これらは基本的に学生の主体的な取り組みの中で行われるもので、受講希望の学生が自らの関心や進路計画に応じて選択し履修する（主体性・多様性・協働性）。
- 修士論文の執筆過程では、執筆の現状などを中間報告会で報告する中で、関係する教員から指導を受けることが義務付けられている。この過程で、自分の考えを主体的かつ論理的に表現する能力を身につける（主体性・多様性・協働性）。

法学研究科

政治学専攻

登録コード		科目名	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	備考
科目	クラス							
30315001		政治学基礎	2	長谷川 飯田 寺田	春学期	2	不可	(注1)
30315002		社会調査論	2	森 裕城	春学期	2	可	
30315003		計量政治学	2	飯田 健	春学期	2	可	
30315011		国際関係1 (国際関係理論)	2	大矢根 聡	秋学期	2	可	
30315012		国際関係2 (国際政治経済論)	2	大矢根 聡	春学期	2	可	
30315013		国際関係3 (国際安全保障論)	2	村田 晃嗣	秋学期	2	可	
30315014		国際関係4 (国際組織論)	2	鷺江 義勝	秋学期	2	可	
		国際関係5 (国際関係史)	2	(本年度休講)				
30315016		国際関係6 (外交政策論)	2	浅野 亮	春学期	2	可	
30315021		地域研究1 (中国)	2	浅野 亮	秋学期	2	可	
30315022		地域研究2 (東南アジア)	2	鈴木 絢女	春学期	2	可	
30315023		地域研究3 (南アジア)	2	中溝 和弥	秋学期	2	可	
30315024		地域研究4 (中東)	2	北澤 義之	春学期	2	可	
30315025		地域研究5 (ヨーロッパ)	2	鷺江 義勝	春学期	2	可	
30315026		地域研究6 (アメリカ)	2	村田 晃嗣	春学期	2	可	
30315031		政治過程1 (政治過程論)	2	森 裕城	秋学期	2	可	
30315032		政治過程2 (政治行動論)	2	西澤 由隆	春学期	2	可	
		政治過程3 (政治経済学)	2	(本年度休講)				
30315034		政治過程4 (選挙研究)	2	品田 裕	秋学期	2	可	
30315035		政治過程5 (比較政治)	2	力久 昌幸	秋学期	2	可	
30315036		政治過程6 (行政学)	2	市川 喜崇	春学期	2	可	
30315037		政治過程7 (地方政府論)	2	市川 喜崇	秋学期	2	可	
30315041		政治史1 (日本政治史1)	2	森 靖夫	春学期	2	可	
30315042		政治史2 (日本政治史2)	2	森 靖夫	秋学期	2	可	
		政治史3 (日本政治史資料講読)	2	(本年度休講)				
30315044		政治史4 (ヨーロッパ政治史1)	2	力久 昌幸	春学期	2	可	
		政治史5 (ヨーロッパ政治史2)	2	(本年度休講)				
30315051		政治思想1 (西洋政治思想史)	2	長谷川一年	春学期	2	可	
30315052		政治思想2 (現代の政治理論)	2	長谷川一年	秋学期	2	可	
30315053		政治思想3 (日本政治思想史)	2	長妻三佐雄	春学期	2	可	
30315054		政治思想4 (日本政治思想史資料講読)	2	長妻三佐雄	秋学期	2	可	
30315111		文献研究	2	力久 昌幸	春学期	2	可	
大学院特殊講義								
		テーマ						
30315142	001	方法論セミナー (応用)	2	飯田 健	春学期	集中	可	(注2,3,4)
30315126	002	大正・昭和期崩し史料読解1	2	森 靖夫	春学期	2	可	(注4)
30315127	003	大正・昭和期崩し史料読解2	2	森 靖夫	秋学期	2	可	(注4)
30315123	004	Introduction to the Japanese Policy Process	2	ROBERT WILLIAM ASPINALL	秋学期	2	可	(注4)
30315143	005	初学者のための現代中東	2	加茂 佳彦	春学期	集中	可	(注2)
30315143	006	International History in the Asia-Pacific Region 2021	2	中達 啓示	春学期	2	可	
30315124	007	Law and Diplomacy in International Relations 1	2	兼原 信克	春学期	2	可	(注4)
30315125	008	Law and Diplomacy in International Relations 2	2	兼原 信克	秋学期	2	可	(注4)
30315128	016	Experimental Political Science	2	村上 剛	秋学期	2	不可	

博士課程
(前期課程)
法学研究科

(注1) 「政治学基礎」は必修科目です。また、1年次生については大学で一括して登録します。

(注2) 今年度修了予定者は登録できない場合がありますので、掲示を確認してください。

(注3) 「大学院特殊講義」クラス1は、「計量政治学」が過年度履修済みであるか、履修中であることが条件となります。

(注4) 過年度に同一テーマの「大学院特殊講義」を履修済みの場合、修了必要単位に参入されません。詳細は『法学研究科履修の手引き』および掲示等を参照してください。

登録コード		科 目 名	単 位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分	備 考
科 目	クラス							
		テーマ研究	2	(本年度休講)				
研究科間協定科目								
30306001	001	Introduction to Japanese Law	2	高杉 直 SHAWN MICHAEL HUIZENGA	秋学期	2	不可	
30306001	002	Introduction to Japanese Law	2	COLIN P.A. JONES	春学期	2	不可	
30306002	001	Introduction to Japanese Politics	2	飯田 健	春学期	2	可	
30306002	002	Introduction to Japanese Politics	2	飯田 健	秋学期	2	可	
		Research and Writing (Politics)	2	(本年度休講)				
30306022		Political Economy in the Asia-Pacific Region	2	寺田 貴	秋学期	2	可	
30306023		International Relations Theory in the Asia-Pacific Region	2	寺田 貴	春学期	2	可	
30306024		Public Opinion and Political Participation in Japan	2	西澤 由隆	秋学期	2	不可	
30306025		Development and Democracy in East Asia	2	鈴木 絢女	春学期	2	可	
【論文指導科目・論文】								
30305996		論文指導	2	別表参照				
30311901		論 文						

●政治学専攻・論文指導

科目コード：30305996

担当者	クラスコード		担当者	クラスコード	
	春	秋		春	秋
浅野 亮	001	101	西澤 由隆	008	108
長谷川一年	002	102	大矢根 聡	009	109
市川 喜崇	003	103	力久 昌幸	010	110
飯田 健	004	104	寺田 貴	011	111
森 裕城	005	105	鷺江 義勝	012	112
森 靖夫	006	106	兼原 信克	054	154
村田 晃嗣	007	107	—	—	—

【注 意】

※「論文指導」は合計4単位を履修する必要がある、うち2単位は修了する学期に必ず履修しなければなりません。

※修士論文を提出する予定の方は、決定している指導教員の担当する「論文指導」および「論文」を必ず登録してください。

※春・秋学期に1回ずつ登録する場合は、必ず同一担当者の「論文指導」を登録してください。

※今年度修士論文を提出する予定でない場合でも、下記に該当する方は、今年度中に「論文指導」を必ず登録してください。「論文指導（計4単位）」の履修には、2学期以上必要となりますので、計画的に登録履修をしてください。

1. 来年度の春学期修了を予定している
2. 来年度の秋学期修了を予定しているが、春学期は休学する予定である
3. すでに1年半以上在籍しており、今後は修士論文を提出する学期以外は休学予定である

※後述の「履修について（政治学専攻）」を参照してください。

私 法 学 専 攻

登録コード		科 目 名	単 位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分	備 考
科 目	ク ラ ス							
【基幹科目】								
30335301		民法演習Ⅰ 1	2	川和 功子	春学期	2	不可	
30335302		民法演習Ⅰ 2	2	川和 功子	秋学期	2	不可	
30335311		民法演習Ⅱ 1	2	荻野 奈緒	春学期	2	不可	
30335312		民法演習Ⅱ 2	2	梶山 玉香	秋学期	2	不可	
30335321		民法演習Ⅲ 1	2	神谷 遊	春学期	2	可	
30335322		民法演習Ⅲ 2	2	神谷 遊	秋学期	2	可	
30335331		民法演習Ⅳ 1	2	上田誠一郎	春学期	2	可	
30335332		民法演習Ⅳ 2	2	上田誠一郎	秋学期	2	可	
30335351		商法演習Ⅰ 1	2	船津 浩司	春学期	2	不可	
30335352		商法演習Ⅰ 2	2	川口 恭弘	秋学期	2	不可	
30335361		商法演習Ⅱ 1	2	伊藤 靖史	春学期	2	不可	
30335362		商法演習Ⅱ 2	2	伊藤 靖史	秋学期	2	不可	
30335371		商法演習Ⅲ 1	2	釜田 薫子	春学期	2	不可	
30335372		商法演習Ⅲ 2	2	釜田 薫子	秋学期	2	不可	
30335381		経済法演習 1	2	瀬領 真悟	春学期	2	可	
30335382		経済法演習 2	2	瀬領 真悟	秋学期	2	可	
30335401		民事訴訟法演習Ⅰ 1	2	岡田 幸宏	春学期	2	可	
30335402		民事訴訟法演習Ⅰ 2	2	岡田 幸宏	秋学期	2	可	
30335411		民事訴訟法演習Ⅱ 1	2	川嶋 四郎	春学期	2	可	
30335412		民事訴訟法演習Ⅱ 2	2	川嶋 四郎	秋学期	2	可	
30335451		知的財産法演習 1	2	(本年度休講)				
30335452		知的財産法演習 2	2	(本年度休講)				
30335461		知的財産法演習Ⅰ 1	2	井関 涼子	春学期	2	可	(注1)
30335462		知的財産法演習Ⅰ 2	2	井関 涼子	秋学期	2	可	(注2)
30335471		知的財産法演習Ⅱ 1	2	山根 崇邦	春学期	2	可	
30335472		知的財産法演習Ⅱ 2	2	山根 崇邦	秋学期	2	可	
30335501		国際私法演習 1	2	高杉 直	春学期	2	可	
30335502		国際私法演習 2	2	林 貴美	秋学期	2	可	
30335551		労働法演習Ⅰ 1	2	土田 道夫	春学期	2	可	
30335552		労働法演習Ⅰ 2	2	土田 道夫	秋学期	2	可	
30335561		労働法演習Ⅱ 1	2	上田 達子	春学期	2	可	
30335562		労働法演習Ⅱ 2	2	上田 達子	秋学期	2	可	
【共通科目】								
30305901		ケーススタディ憲法	2	檜垣 伸次	春学期	2	可	
30305902		ケーススタディ行政法	2	佐伯 祐二	春学期	2	不可	
30305903		ケーススタディ税法	2	近藤 雅人	秋学期	2	可	
30305904		ケーススタディ刑法	2	十河 太朗	秋学期	2	可	
30305905		ケーススタディ刑事訴訟法	2	洲見 光男	秋学期	2	可	
30305906		ケーススタディ国際法	2	浅田 正彦	春学期	2	可	
30305912		ケーススタディ民法1	2	荻野 奈緒 野々村和喜	春学期	2	可	
30305913		ケーススタディ民法2	2	荻野 奈緒 野々村和喜	秋学期	2	可	
30305908		ケーススタディ商法	2	伊藤 靖史 船津 浩司	春学期	2	不可	
30305909		ケーススタディ民事訴訟法	2	園田 賢治	春学期	2	可	
30305921		ビジネス契約法	2	阿部 道明	秋学期	集中	可	(注3)
30305922		消費者法	2	中田 邦博	春学期	2	可	

(注1) 過年度に「知的財産法演習1」を履修済の場合、修了必要単位に算入されません。

(注2) 過年度に「知的財産法演習2」を履修済の場合、修了必要単位に算入されません。

(注3) 今年度修了予定者は登録できない場合がありますので、掲示を確認してください。

登録コード		科 目 名	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分	備 考
科 目	クラス							
30305923		金融取引法	2	舩津 浩司	秋学期	2	不可	
30305924		経済刑法	2	十河 太朗	春学期	2	可	
30305925		コーポレート・ガバナンス	2	舩津 浩司	春学期	2	不可	
30305926		コーポレート・ファイナンス	2	川口 恭弘	秋学期	2	不可	
30305941		金融商品取引法	2	川口 恭弘	春学期	2	不可	
30305928		M & A	2	伊藤 靖史	秋学期	2	不可	
30305942		企業活動と経済法	2	笠原 宏	春学期	2	可	
30305929		企業税法	2	占部 裕典	秋学期	2	可	
30305930		法律英語	2	阿部 道明	春学期	集中	可	(注1)
30305931		担保権実行法	2	川嶋 四郎	春学期	2	可	
30305932		倒産処理法	2	金 春 中西 正	春学期	2	可	
30305933		国際取引法	2	高杉 直	春学期	2	可	
30305934		国際経済法	2	瀬領 真悟	春学期	2	可	
30305935		国際民事訴訟法	2	高杉 直	秋学期	2	可	
30305936		国際知的財産法	2	坂田 均	春学期	2	可	
30305937		ビジネスと知的財産法	2	坂田 均	秋学期	2	可	
30305938		企業人事と労働法	2	土田 道夫	春学期	2	可	
30305939		企業法務と労働法	2	土田 道夫	秋学期	2	可	
30305943		企業法務エシックス	2	小倉 隆 渡邊 義広	春学期	2	不可	
30305940		企業法務ベーシック	2	小倉 隆 渡邊 義広	春学期	2	不可	
30305944	001	企業法務アドバンス (日本企業の企業内法務)	2	阿部 道明	秋学期	集中	可	(注1)
30305944	002	企業法務アドバンス (企業法務の現代的課題と未来像)	2	大澤 頼人	春学期	2	可	
30305944	003	企業法務アドバンス (M & A・資金調達の問題をケースから考える)	2	永井 智亮	春学期	集中	可	(注1)
30305944	004	企業法務アドバンス (コーポレートガバナンス・会社の機関の問題をケースから考える)	2	永井 智亮	秋学期	集中	可	(注1)
30305944	005	企業法務アドバンス (企業マネジメントと企業法務)	2	渡邊 義広	春学期	2	可	
30305944	006	企業法務アドバンス (最近の労働法制と労働政策)	2	渡邊 義広	秋学期	2	可	
30304491		リーガル・フィールドワーク	2	小倉 隆 渡邊 義広	秋学期	2	不可	(注2)
30305981	001	文献研究 (英語) ①	2	濱 真一郎	春学期	2	可	
30305981	002	文献研究 (英語) ②	2	川崎 友巳	春学期	2	不可	
30305981	003	文献研究 (英語) ③	2	川崎 友巳	秋学期	2	不可	
30305981	004	文献研究 (英語) ④	2	川嶋 四郎	春学期	2	可	
30305981	005	文献研究 (英語) ⑤	2	川嶋 四郎	秋学期	2	可	
30305981	006	文献研究 (英語) ⑥	2	川和 功子	春学期	2	不可	
30305981	007	文献研究 (英語) ⑦	2	川和 功子	秋学期	2	不可	
30305981	008	文献研究 (英語) ⑧	2	金 春	春学期	2	可	
30305981	009	文献研究 (英語) ⑨	2	金 春	秋学期	2	可	
30305981	010	文献研究 (英語) ⑩	2	黒坂 則子	春学期	2	不可	
30305981	011	文献研究 (英語) ⑪	2	黒坂 則子	秋学期	2	不可	
30305981	013	文献研究 (英語) ⑬	2	太田 裕之	秋学期	2	可	
30305981	014	文献研究 (英語) ⑭	2	田中 治	春学期	2	不可	
30305981	015	文献研究 (英語) ⑮	2	田中 治	秋学期	2	不可	
30305981	016	文献研究 (英語) ⑯	2	浅野 有紀	春学期	2	可	

(注1) 今年度修了予定者は登録できない場合がありますので、掲示を確認してください。

(注2) 「リーガル・フィールドワーク」は、当該年度の「企業法務エシックス」「企業法務ベーシック」の履修を条件とし、受講生選考を実施します。詳細は『法学研究科履修の手引き』を参照してください。

登録コード		科目名	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	備考
科目	クラス							
30305981	017	文献研究 (英語) ⑰	2	浅野 有紀	秋学期	2	可	
30305981	018	文献研究 (英語) ⑱	2	平井 亮輔	秋学期	2	可	
30305982	001	文献研究 (ドイツ語) ①	2	林 貴美	春学期	2	可	
30305982	002	文献研究 (ドイツ語) ②	2	林 貴美	秋学期	2	可	
30305982	003	文献研究 (ドイツ語) ③	2	上田誠一郎	春学期	2	可	
30305982	004	文献研究 (ドイツ語) ④	2	上田誠一郎	秋学期	2	可	
30305982	005	文献研究 (ドイツ語) ⑤	2	中田 邦博	春学期	2	可	
30305982	006	文献研究 (ドイツ語) ⑥	2	中田 邦博	秋学期	2	可	
		文献研究 (フランス語)	2	(本年度休講)				
大学院特殊講義								
		テーマ						
30305991	009	アメリカ史における最高裁の役割	2	阿川 尚之	秋学期	集中	可	(注)
30305991	010	法実証主義と法のグローバル化	2	濱 真一郎 浅野 有紀	秋学期	2	可	
30305991	011	企業法務に不可欠な知識とスキル	2	飯田 浩司	秋学期	集中	可	(注)
30305991	012	国際取引のためのイギリス契約法基本理論	2	松田日佐子	秋学期	集中	可	(注)
30305991	013	2021 行政法の現代的課題 1	2	高木 光	春学期	2	不可	
30305991	014	2021 行政法の現代的課題 2	2	高木 光	秋学期	2	不可	
30305991	015	調停の法と実践	2	高杉 直 入江 秀晃	秋学期	集中	可	(注)
グローバル科目 [] はサブタイトルを表す								
30306001	001	Introduction to Japanese Law	2	高杉 直 SHAWN MICHAEL HUIZENGA	秋学期	2	不可	
30306001	002	Introduction to Japanese Law	2	COLIN P.A. JONES	春学期	2	不可	
30306006	001	Japanese Constitution [From a Comparative Perspective]	2	阿川 尚之	春学期	集中	可	(注)
		Japanese Private Law	2	(本年度休講)				
30306008	001	Special Course in Japanese Law [Legal History 2021]	2	西村 安博	秋学期	2	不可	
30306008	002	Special Course in Japanese Law [Antimonopoly Law 2021]	2	和久井理子	春学期	2	可	
30306009	001	Current Issues in Japanese Law [Topical Issues in Japanese Law 2021]	2	KARYN KANDELL	秋学期	2	可	
30306010	001	American Law [Criminal Law]	2	SHAWN MICHAEL HUIZENGA	秋学期	2	可	
30306011	001	Asian Law [Chinese Private Law 2021]	2	黄 韜霆	秋学期	集中	不可	(注)
		European Law	2	(本年度休講)				
30306013	001	Current Issues in Comparative Law [Cross-Cultural Negotiation 2021]	2	JAY KLAPHAKE	春学期	2	可	
30306013	002	Current Issues in Comparative Law [Private International Law 2021]	2	西谷 祐子	秋学期	2	可	
		International Law	2	(本年度休講)				
30306015	001	International Arbitration [International Commercial Arbitration 2021]	2	高橋 宏司	秋学期	2	可	
30306015	002	International Arbitration [Investment Arbitration]	2	ANSELMO REYES	春学期	集中	可	(注)
30306015	003	International Arbitration [Commercial Arbitration]	2	ANSELMO REYES	秋学期	集中	可	(注)
30306015	004	International Arbitration [Investor-State Arbitration]	2	JAMES CLAXTON	秋学期	2	可	
30306016	001	International Institutions and Global Law [WTO Framework]	2	阿部 道明	春学期	集中	可	(注)
30306017	001	Current Issues in Global Law [International Civil Procedure]	2	高橋 宏司	秋学期	2	可	
30306017	002	Current Issues in Global Law [Theories of Global Justice 2021]	2	JAY KLAPHAKE	秋学期	2	可	

(注) 今年度修了予定者は登録できない場合がありますので、掲示を確認してください。

登録コード		科 目 名	単 位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分	備 考
科 目	ク ラ ス							
30306017	003	Current Issues in Global Law [Comparative Law of Privacy and Identity]	2	COLIN P.A. JONES	秋学期	2	可	
30306017	004	Current Issues in Global Law [Global and Comparative Perspectives on Competition Law]	2	MEL MARQUIS	秋学期	集中	可	(注1)
30306018		International Commercial Arbitration Moot 1	2	小倉 隆	春学期	2	不可	
30306019		International Commercial Arbitration Moot 2	2	小倉 隆	秋学期	2	不可	
		International Law Moot 1	2	(本年度休講)				
		International Law Moot 2	2	(本年度休講)				
研究科間協定科目								
30306003	001	Research and Writing (Law)	2	KARYN KANDELL	春学期	2	不可	(注2)
30306003	002	Research and Writing (Law)	2	高杉 直 SHAWN MICHAEL HUIZENGA	秋学期	2	不可	(注2)
【論文指導科目・論文】								
30305996		論文指導	2	別表参照				
30332901		論 文						

(注1) 今年度修了予定者は登録できない場合がありますので、掲示を確認してください。

(注2) ダブル・ディグリープログラムへの参加学生のみが履修できます。

●私法学専攻・論文指導

科目コード：30305996

担当者	クラスコード		担当者	クラスコード		担当者	クラスコード	
	春	秋		春	秋		春	秋
深谷 格	013	113	釜田 薫子	022	122	井関 涼子	031	131
梶山 玉香	014	114	川口 恭弘	023	123	山根 崇邦	032	132
神谷 遊	015	115	木下 孝治	024	124	林 貴美	033	133
川和 功子	016	116	瀬領 真悟	025	125	高杉 直	034	134
荻野 奈緒	017	117	山下 友信	026	126	高橋 宏司	035	135
佐々木典子	018	118	林 昭一	027	127	土田 道夫	036	136
上田誠一郎	019	119	川嶋 四郎	028	128	上田 達子	037	137
船津 浩司	020	120	中西 正	029	129	—	—	—
伊藤 靖史	021	121	岡田 幸宏	030	130	—	—	—

【注 意】

※「論文指導」は合計4単位を履修する必要があり、うち2単位は修了する学期に必ず履修しなければなりません。

※修士論文を提出する予定の方は、決定している指導教員の担当する「論文指導」および「論文」を必ず登録してください。

※春・秋学期に1回ずつ登録する場合は、必ず同一担当者の「論文指導」を登録してください。

※今年度修士論文を提出する予定でない場合でも、下記に該当する方は、今年度中に「論文指導」を必ず登録してください。「論文指導（計4単位）」の履修には、2学期以上必要となりますので、計画的に登録履修をしてください。

1. 来年度の春学期修了を予定している
2. 来年度の秋学期修了を予定しているが、春学期は休学する予定である
3. すでに1年半以上在籍しており、今後は修士論文を提出する学期以外は休学予定である

※後述の「履修について（私法学専攻・公法学専攻）」を参照してください。

公 法 学 専 攻

登録コード		科 目 名	単 位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分	備 考
科 目	ク ラ ス							
【基幹科目】								
30365601		憲法演習Ⅰ 1	2	勝山 教子	春学期	2	可	
30365602		憲法演習Ⅰ 2	2	勝山 教子	秋学期	2	可	
30365611		憲法演習Ⅱ 1	2	尾形 健	春学期	集中	可	(注)
30365612		憲法演習Ⅱ 2	2	松本 哲治	秋学期	2	可	
30365651		行政法演習Ⅰ 1	2	佐伯 彰洋	春学期	2	不可	
30365652		行政法演習Ⅰ 2	2	佐伯 彰洋	秋学期	2	不可	
30365661		行政法演習Ⅱ 1	2	黒坂 則子	春学期	2	不可	
30365662		行政法演習Ⅱ 2	2	黒坂 則子	秋学期	2	不可	
30365671		税法演習 1	2	田中 治	春学期	2	不可	
30365672		税法演習 2	2	田中 治	秋学期	2	不可	
30365701		刑法演習Ⅰ 1	2	川崎 友巳	春学期	2	可	
30365702		刑法演習Ⅰ 2	2	川崎 友巳	秋学期	2	可	
30365711		刑法演習Ⅱ 1	2	松原 久利	春学期	2	可	
30365712		刑法演習Ⅱ 2	2	松原 久利	秋学期	2	可	
30365721		刑事訴訟法演習 1	2	河村 博	春学期	2	可	
30365722		刑事訴訟法演習 2	2	河村 博	秋学期	2	可	
30365731		刑事学演習 1	2	川崎 友巳	春学期	2	可	
30365732		刑事学演習 2	2	川崎 友巳	秋学期	2	可	
30365751		国際法演習Ⅰ 1	2	浅田 正彦	春学期	2	不可	
30365752		国際法演習Ⅰ 2	2	浅田 正彦	秋学期	2	不可	
30365761		国際法演習Ⅱ 1	2	岩本 誠吾	春学期	2	可	
30365762		国際法演習Ⅱ 2	2	岩本 誠吾	秋学期	2	可	
30365801		法哲学演習 1	2	濱 真一郎	春学期	2	可	
30365802		法哲学演習 2	2	浅野 有紀	秋学期	2	可	
30365811		法思想史演習 1	2	戒能 通弘	春学期	2	可	
30365812		法思想史演習 2	2	戒能 通弘	秋学期	2	可	
30365821		法社会学演習 1	2	木下麻奈子	春学期	2	可	
30365822		法社会学演習 2	2	木下麻奈子	秋学期	2	可	
30365851		英米法演習 1	2	勝田 卓也	春学期	2	不可	
30365852		英米法演習 2	2	会沢 恒	秋学期	集中	可	(注)
30365863		日本法史演習 1	2	西村 安博	春学期	2	可	
30365864		日本法史演習 2	2	西村 安博	秋学期	2	可	
30365873		西洋法史演習 1	2	佐々木 健	春学期	2	可	
30365874		西洋法史演習 2	2	佐々木 健	秋学期	2	可	
30365883		東洋法史演習 1	2	西澤希久男	春学期	2	可	
30365884		東洋法史演習 2	2	浅野 宜之	秋学期	2	可	
【共通科目】								
30305901		ケーススタディ憲法	2	檜垣 伸次	春学期	2	可	
30305902		ケーススタディ行政法	2	佐伯 祐二	春学期	2	不可	
30305903		ケーススタディ税法	2	近藤 雅人	秋学期	2	可	
30305904		ケーススタディ刑法	2	十河 太朗	秋学期	2	可	
30305905		ケーススタディ刑事訴訟法	2	洲見 光男	秋学期	2	可	
30305906		ケーススタディ国際法	2	浅田 正彦	春学期	2	可	
30305912		ケーススタディ民法 1	2	荻野 奈緒 野々村和喜	春学期	2	可	
30305913		ケーススタディ民法 2	2	荻野 奈緒 野々村和喜	秋学期	2	可	
30305908		ケーススタディ商法	2	伊藤 靖史 船津 浩司	春学期	2	不可	

(注) 今年度修了予定者は登録できない場合がありますので、掲示を確認してください。

登録コード		科目名	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	備考
科目	クラス							
30305909		ケーススタディ民事訴訟法	2	園田 賢治	春学期	2	可	
30305921		ビジネス契約法	2	阿部 道明	秋学期	集中	可	(注1)
30305922		消費者法	2	中田 邦博	春学期	2	可	
30305923		金融取引法	2	船津 浩司	秋学期	2	不可	
30305924		経済刑法	2	十河 太朗	春学期	2	可	
30305925		コーポレート・ガバナンス	2	船津 浩司	春学期	2	不可	
30305926		コーポレート・ファイナンス	2	川口 恭弘	秋学期	2	不可	
30305941		金融商品取引法	2	川口 恭弘	春学期	2	不可	
30305928		M & A	2	伊藤 靖史	秋学期	2	不可	
30305942		企業活動と経済法	2	笠原 宏	春学期	2	可	
30305929		企業税法	2	占部 裕典	秋学期	2	可	
30305930		法律英語	2	阿部 道明	春学期	集中	可	(注1)
30305931		担保権実行法	2	川嶋 四郎	春学期	2	可	
30305932		倒産処理法	2	金 春 中西 正	春学期	2	可	
30305933		国際取引法	2	高杉 直	春学期	2	可	
30305934		国際経済法	2	瀬領 真悟	春学期	2	可	
30305935		国際民事訴訟法	2	高杉 直	秋学期	2	可	
30305936		国際知的財産法	2	坂田 均	春学期	2	可	
30305937		ビジネスと知的財産法	2	坂田 均	秋学期	2	可	
30305938		企業人事と労働法	2	土田 道夫	春学期	2	可	
30305939		企業法務と労働法	2	土田 道夫	秋学期	2	可	
30305943		企業法務エシックス	2	小倉 隆 渡邊 義広	春学期	2	不可	
30305940		企業法務ベーシック	2	小倉 隆 渡邊 義広	春学期	2	不可	
30305944	001	企業法務アドバンス (日本企業の企業内法務)	2	阿部 道明	秋学期	集中	可	(注1)
30305944	002	企業法務アドバンス (企業法務の現代的課題と未来像)	2	大澤 頼人	春学期	2	可	
30305944	003	企業法務アドバンス (M & A・資金調達の問題をケースから考える)	2	永井 智亮	春学期	集中	可	(注1)
30305944	004	企業法務アドバンス (コーポレートガバナンス・会社の機関の問題をケースから考える)	2	永井 智亮	秋学期	集中	可	(注1)
30305944	005	企業法務アドバンス (企業マネジメントと企業法務)	2	渡邊 義広	春学期	2	可	
30305944	006	企業法務アドバンス (最近の労働法制と労働政策)	2	渡邊 義広	秋学期	2	可	
30304491		リーガル・フィールドワーク	2	小倉 隆 渡邊 義広	秋学期	2	不可	(注2)
30305981	001	文献研究 (英語) ①	2	濱 真一郎	春学期	2	可	
30305981	002	文献研究 (英語) ②	2	川崎 友巳	春学期	2	不可	
30305981	003	文献研究 (英語) ③	2	川崎 友巳	秋学期	2	不可	
30305981	004	文献研究 (英語) ④	2	川嶋 四郎	春学期	2	可	
30305981	005	文献研究 (英語) ⑤	2	川嶋 四郎	秋学期	2	可	
30305981	006	文献研究 (英語) ⑥	2	川和 功子	春学期	2	不可	
30305981	007	文献研究 (英語) ⑦	2	川和 功子	秋学期	2	不可	
30305981	008	文献研究 (英語) ⑧	2	金 春	春学期	2	可	
30305981	009	文献研究 (英語) ⑨	2	金 春	秋学期	2	可	
30305981	010	文献研究 (英語) ⑩	2	黒坂 則子	春学期	2	不可	
30305981	011	文献研究 (英語) ⑪	2	黒坂 則子	秋学期	2	不可	
30305981	013	文献研究 (英語) ⑬	2	太田 裕之	秋学期	2	可	
30305981	014	文献研究 (英語) ⑭	2	田中 治	春学期	2	不可	

(注1) 今年度修了予定者は登録できない場合がありますので、掲示を確認してください。

(注2) 「リーガル・フィールドワーク」は、当該年度の「企業法務エシックス」「企業法務ベーシック」の履修を条件とし、受講生選考を実施します。詳細は『法学研究科履修の手引き』を参照してください。

登録コード		科目名	単位	担当者	期間	週時間	聴講区分	備考
科目	クラス							
30305981	015	文献研究 (英語) ⑮	2	田中 治	秋学期	2	不可	
30305981	016	文献研究 (英語) ⑯	2	浅野 有紀	春学期	2	可	
30305981	017	文献研究 (英語) ⑰	2	浅野 有紀	秋学期	2	可	
30305981	018	文献研究 (英語) ⑱	2	平井 亮輔	秋学期	2	可	
30305982	001	文献研究 (ドイツ語) ①	2	林 貴美	春学期	2	可	
30305982	002	文献研究 (ドイツ語) ②	2	林 貴美	秋学期	2	可	
30305982	003	文献研究 (ドイツ語) ③	2	上田誠一郎	春学期	2	可	
30305982	004	文献研究 (ドイツ語) ④	2	上田誠一郎	秋学期	2	可	
30305982	005	文献研究 (ドイツ語) ⑤	2	中田 邦博	春学期	2	可	
30305982	006	文献研究 (ドイツ語) ⑥	2	中田 邦博	秋学期	2	可	
		文献研究 (フランス語)	2	(本年度休講)				
大学院特殊講義								
		テーマ						
30305991	009	アメリカ史における最高裁の役割	2	阿川 尚之	秋学期	集中	可	(注)
30305991	010	法実証主義と法のグローバル化	2	濱 真一郎 浅野 有紀	秋学期	2	可	
30305991	011	企業法務に不可欠な知識とスキル	2	飯田 浩司	秋学期	集中	可	(注)
30305991	012	国際取引のためのイギリス契約法基本理論	2	松田日佐子	秋学期	集中	可	(注)
30305991	013	2021行政法の現代的課題 1	2	高木 光	春学期	2	不可	
30305991	014	2021行政法の現代的課題 2	2	高木 光	秋学期	2	不可	
30305991	015	調停の法と実践	2	高杉 直 入江 秀晃	秋学期	集中	可	(注)
グローバル科目 [] はサブタイトルを表す								
30306001	001	Introduction to Japanese Law	2	高杉 直 SHAWN MICHAEL HUIZENGA	秋学期	2	不可	
30306001	002	Introduction to Japanese Law	2	COLIN P.A. JONES	春学期	2	不可	
30306006	001	Japanese Constitution [From a Comparative Perspective]	2	阿川 尚之	春学期	集中	可	(注)
		Japanese Private Law	2	(本年度休講)				
30306008	001	Special Course in Japanese Law [Legal History 2021]	2	西村 安博	秋学期	2	不可	
30306008	002	Special Course in Japanese Law [Antimonopoly Law 2021]	2	和久井理子	春学期	2	可	
30306009	001	Current Issues in Japanese Law [Topical Issues in Japanese Law 2021]	2	KARYN KANDELL	秋学期	2	可	
30306010	001	American Law [Criminal Law]	2	SHAWN MICHAEL HUIZENGA	秋学期	2	可	
30306011	001	Asian Law [Chinese Private Law 2021]	2	黄 韜霆	秋学期	集中	不可	(注)
		European Law	2	(本年度休講)				
30306013	001	Current Issues in Comparative Law [Cross-Cultural Negotiation 2021]	2	JAY KLAPHAKE	春学期	2	可	
30306013	002	Current Issues in Comparative Law [Private International Law 2021]	2	西谷 祐子	秋学期	2	可	
		International Law	2	(本年度休講)				
30306015	001	International Arbitration [International Commercial Arbitration 2021]	2	高橋 宏司	秋学期	2	可	
30306015	002	International Arbitration [Investment Arbitration]	2	ANSELMO REYES	春学期	集中	可	(注)
30306015	003	International Arbitration [Commercial Arbitration]	2	ANSELMO REYES	秋学期	集中	可	(注)
30306015	004	International Arbitration [Investor-State Arbitration]	2	JAMES CLAXTON	秋学期	2	可	
30306016	001	International Institutions and Global Law [WTO Framework]	2	阿部 道明	春学期	集中	可	(注)
30306017	001	Current Issues in Global Law [International Civil Procedure]	2	高橋 宏司	秋学期	2	可	
30306017	002	Current Issues in Global Law [Theories of Global Justice 2021]	2	JAY KLAPHAKE	秋学期	2	可	

(注) 今年度修了予定者は登録できない場合がありますので、掲示を確認してください。

登録コード		科 目 名	単 位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分	備 考
科 目	クラス							
30306017	003	Current Issues in Global Law [Comparative Law of Privacy and Identity]	2	COLIN P.A. JONES	秋学期	2	可	
30306017	004	Current Issues in Global Law [Global and Comparative Perspectives on Competition Law]	2	MEL MARQUIS	秋学期	集中	可	(注1)
30306018		International Commercial Arbitration Moot 1	2	小倉 隆	春学期	2	不可	
30306019		International Commercial Arbitration Moot 2	2	小倉 隆	秋学期	2	不可	
		International Law Moot 1	2	(本年度休講)				
		International Law Moot 2	2	(本年度休講)				
研究科間協定科目								
30306003	001	Research and Writing (Law)	2	KARYN KANDELL	春学期	2	不可	(注2)
30306003	002	Research and Writing (Law)	2	高杉 直 SHAWN MICHAEL HUIZENGA	秋学期	2	不可	(注2)
【論文指導科目・論文】								
30305996		論文指導	2	別表参照				
30363901		論 文						

(注1) 今年度修了予定者は登録できない場合がありますので、掲示を確認してください。

(注2) ダブル・ディグリープログラムへの参加学生のみが履修できます。

●公法学専攻・論文指導

科目コード：30305996

担当者	クラスコード		担当者	クラスコード		担当者	クラスコード	
	春	秋		春	秋		春	秋
勝山 教子	038	138	田中 治	044	144	濱 真一郎	050	150
松本 哲治	039	139	河村 博	045	145	戒能 通弘	051	151
黒坂 則子	040	140	川崎 友巳	046	146	木下麻奈子	052	152
佐伯 彰洋	041	141	新井 京	047	147	西村 安博	053	153
佐伯 祐二	042	142	浅田 正彦	048	148	—	—	—
横田 光平	043	143	浅野 有紀	049	149	—	—	—

【注 意】

※「論文指導」は合計4単位を履修する必要があり、うち2単位は修了する学期に必ず履修しなければなりません。

※修士論文を提出する予定の方は、決定している指導教員の担当する「論文指導」および「論文」を必ず登録してください。

※春・秋学期に1回ずつ登録する場合は、必ず同一担当者の「論文指導」を登録してください。

※今年度修士論文を提出する予定でない場合でも、下記に該当する方は、今年度中に「論文指導」を履修してください。

1. 来年度の春学期修了を予定している
2. 来年度の秋学期修了を予定しているが、春学期は休学する予定である
3. すでに1年半以上在籍しており、今後は修士論文を提出する学期以外は休学予定である

※後述の「履修について（私法学専攻・公法学専攻）」を参照してください。

履修について（政治学専攻）

I. 修了要件

大学院学則第7条を確認してください。

II. 修了必要単位

「設置・開講科目一覧」に掲載されている科目のうちから**政治学基礎を必修とし、かつ合計30単位以上選択履修**してください。

ただし、本研究科他専攻、本学大学院他研究科又は高等研究教育院が設置する科目を選択履修した場合は、合計12単位まで修了単位に算入します。

III. 履修登録上の注意

1. 一度合格評価を得た科目を再度履修しても、修了必要単位には算入できません。自由科目扱いになります。
2. 私法学・公法学専攻の「大学院特殊講義」については、4単位までしか修了単位に算入できません。
3. 私法学・公法学専攻の「文献研究」については、6単位までしか修了単位に算入できません。
4. 以下の科目は複数回履修が可能ですが、一度不合格になった後、同じ科目を合格しても**GPAの書き換えは行われません**ので、注意してください。

○政治学専攻科目

- ・文献研究
- ・大学院特殊講義（テーマの異なるクラス）
- ・テーマ研究（サブタイトルの異なるクラス）

○私法学・公法学専攻科目

- ・文献研究（英語）
- ・文献研究（ドイツ語）
- ・文献研究（フランス語）
- ・企業法務アドバンス（サブタイトルの異なるクラス）
- ・大学院特殊講義（テーマの異なるクラス）
- ・グローバル科目（サブタイトルの異なるクラス）

5. 大学院学則により、博士課程の前期課程に2年以上在学し、所定の単位を修得した方は、次の学期から授業料および教育充実費が半額となります。ただし、学部または大学院の授業科目（「論文指導」および「論文」を除く）を履修する場合は、この適用を受けることができませんので、留意のうえ科目登録をしてください。

特に、修士論文が不合格の場合、修士論文を提出する学期の「論文指導」も不合格となり、所定の単位を修得できなくなる可能性があります。また、春学期と秋学期に分かれて開講されているセット登録科目を登録して春学期科目が合格した場合、秋学期科目の履修を中止することはできません。これらの場合はこの適用を受けることができませんので、注意してください。

ご不明な点は、今出川キャンパス教務センター（法学研究科）までお問合せください。

IV. 登録について

『法学研究科履修の手引き』を参照してください。

V. 修士論文について

各種手続の詳細については、『法学研究科履修の手引き』を参照してください。また、その都度掲示で周知しますので、法学研究科掲示板に注意してください。

VI. ダブル・ディグリープログラムについて

ダブル・ディグリープログラムの履修については、『法学研究科履修の手引き』を参照してください。

履修について（私法学専攻・公法学専攻）

I. 修了要件

大学院学則第7条を確認してください。

II. 修了必要単位

自専攻の「設置・開講科目一覧」に掲載されている科目のうちから**基幹科目を8単位以上、かつ合計30単位以上選択履修**してください。

ただし、本研究科他専攻、本学大学院他研究科又は高等研究教育院が設置する科目を選択履修した場合は、合計16単位まで修了単位に算入します。

III. 履修登録上の注意

1. 一度合格評価を得た科目を再度履修しても、修了必要単位には算入できません。自由科目扱いになります。
2. 私法学・公法学専攻の「大学院特殊講義」については、4単位までしか修了単位に算入できません。
3. 「文献研究（英語）」・「文献研究（ドイツ語）」・「文献研究（フランス語）」については、複数回履修科目ではありますが、3科目合計で6単位までしか修了単位に算入できません。
4. 政治学専攻の「文献研究」については、修了単位に算入できません。
5. 本学大学院他研究科及び高等研究教育院の設置する科目については、8単位までしか修了単位に算入できません。
6. 以下の科目は複数回履修が可能ですが、一度不合格になった後、同じ科目を合格しても**GPAの書き換えは行われません**ので、注意してください。

○私法学・公法学専攻科目

- ・文献研究（英語）
- ・文献研究（ドイツ語）
- ・文献研究（フランス語）
- ・企業法務アドバンス（サブタイトルの異なるクラス）
- ・大学院特殊講義（テーマの異なるクラス）
- ・グローバル科目（サブタイトルの異なるクラス）

○政治学専攻科目

- ・大学院特殊講義（テーマの異なるクラス）
- ・テーマ研究（サブタイトルの異なるクラス）

7. 大学院学則により、博士課程の前期課程に2年以上在学し、所定の単位を修得した方は、次の学期から授業料および教育充実費が半額となります。ただし、**学部または大学院の授業科目（「論文指導」および「論文」を除く）を履修する場合は、この適用を受けることができませんので、留意のうえ科目登録をしてください。**

特に、**修士論文が不合格の場合、修士論文を提出する学期の「論文指導」も不合格となり、所定の単位を修得できなくなる可能性があります。**また、春学期と秋学期に分かれて開講されているセット登録科目を登録して春学期科目が合格した場合、秋学期科目の履修を中止することはできません。これらの場合はこの適用を受けることができませんので、注意してください。

ご不明な点は、今出川キャンパス教務センター（法学研究科）までお問合せください。

IV. 登録について

『法学研究科履修の手引き』を参照してください。

V. 修士論文について

各種手続の詳細については、『法学研究科履修の手引き』を参照してください。また、その都度掲示で周知しますので、法学研究科掲示板に注意してください。

VI. ダブル・ディグリープログラムについて

ダブル・ディグリープログラムの履修については、『法学研究科履修の手引き』を参照してください。

法学研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

政治学専攻

◇博士（政治学）

目指すべき人材（物）像

法学研究科政治学専攻博士課程（後期）は、政治学の各分野について、専門的できめ細かな指導を行うことを通じて、研究者あるいは行政・立法機関、企業などにおける実務家として広く学界で活躍する人材の養成を目指す。また、博士学位取得に至るまでの体系的な学修システム（博士学位取得プロセス）を運用するなかで、大学や研究機関において研究活動を行う研究者の育成はもとより、実務家として活動しながらも研究機関に所属する研究者と積極的に連携した研究活動を展開し、その学術的成果を広く社会に還元させることの出来る有為な人材を育成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

- ・政治学の各分野において、独立した研究者としての活動の基盤となる、高度かつ専門的な知識を獲得し、政治学的な問題を客観的に調査するために必要な技能を修得する（知識・技能）。
- ・独立した研究者として活動することを可能とする、研究テーマに応じた理論と分析手法を駆使することにより、政治学的な問題に対応できる柔軟な応用力を修得する（思考力・判断力・表現力）。
- ・文化や思想の多様性を尊重し、他者との協働を通じて、対象とする政治学的な問題について、独創性のある分析と提言ができる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

（編成・運営方針）

- ・政治学の各分野において、高度かつ専門的な知識をもち、独立した研究者としての独創性のある研究を行うことができる研究能力を身につけるためのカリキュラムを定め、博士学位論文執筆のための体系的なシステム（博士学位取得プロセス）を提供する。

（学力の三要素 / 領域）

- ・学生は、指導教員の専門的できめ細かな指導を受けることにより、政治学の各分野において、高度かつ専門的な知識をもち、独立した研究者として独創性のある研究を行うことができる研究能力を身につけ、十分な学術的価値を有する博士学位論文を執筆する（知識・技能）。
- ・なお、政治学系の研究論文作成のための基礎的なトレーニングをあらかじめ受けていない者は、第1年次に、政治学系の研究論文作成のトレーニングとして「論文演習（政治資料・データ研究）」を履修する（知識・技能）。
- ・第2年次に論文題目審査を受けることにより、研究テーマの学術的価値を適切に表現する力を修得する（思考力・判断力・表現力）。
- ・いずれの学生に対しても、修了までの3年の間には、広い学問的視野の涵養が目的とされる中で様々な研究手法を修得する機会が与えられる「総合演習（政治学）」の履修が求められる（主体性・多様性・協働性）。
- ・さらに、最終審査委員予定者が同席して実施される中間報告会で報告し指導を受けることが義務付けられている。この過程で、自分の考えを主体的かつ論理的に表現する力を修得する（主体性・多様性・協働性）。

私法学専攻

◇博士（法学）

目指すべき人材（物）像

法学研究科私法学専攻博士課程（後期）は、私法学の各分野において、専門的できめ細かな指導を行うことを通じて、研究者あるいは法曹界・行政・企業などにおける法律実務家として広く学界で活躍する人材の養成を目指す。また、博士学位取得に至るまでの体系的な学修システム（博士学位取得プロセス）を運用するなかで、大学や研究機関において研究活動を行う研究者の育成はもとより、実務家として活動しながらも研究機関に所属する研究者と積極的に連携した研究活動を展開し、その学術的成果を広く社会に還元させることの出来る有為な人材を育成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

- ・私法学の各分野において、独立した研究者としての活動の基盤となる、高度かつ専門的な知識を獲得し、各研究領域における調査・研究手法に習熟している（知識・技能）。
- ・独立した研究者として活動することを可能とする、法理論的研究、比較法的研究、法史的研究、法政策学的研究など、研究テーマに求められる適切な研究手法を駆使できる（思考力・判断力・表現力）。
- ・対象とする法律問題について、理論面・実践面において独創的かつ有意義な情報の発信ができる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

（編成・運営方針）

- ・私法学の各分野において、高度かつ専門的な知識をもち、独立した研究者としての独創性のある研究を行うことができる研究能力を修得するためのカリキュラムを定める。

（学力の三要素 / 領域）

- ・担当教員による専門的かつ、きめ細かな指導を受けることを基本とする。一方で、後期課程に進学する以前に、法学系の研究論文作成のための基礎的なトレーニングを受けていない者に対しては、第1年次に、法学系の研究論文作成のトレーニングとして「論文演習Ⅰ（判例研究）」「論文演習Ⅱ（外国法研究）」の履修を求める（知識・技能）。
- ・博士学位論文執筆のための体系的なシステム（博士学位取得プロセス）を提供する。また、第2年次には、論文題目審査を受けることにより、研究テーマの学術的価値を適切に表現する力を身につける（思考力・判断力・表現力）。
- ・いずれの学生に対しても、修了までの3年の間には、広い学問的視野の涵養が目的とされる中で様々な研究手法を修得する機会が与えられる「総合演習（法学）」の履修が求められる（主体性・多様性・協働性）。
- ・さらに博士学位論文の執筆過程では、学位論文審査予定の教員が同席して実施される中間報告会で、執筆の現状などを報告し指導を受けることが義務付けられている。この過程で、自分の考えを主体的かつ論理的に表現する能力を身につける（主体性・多様性・協働性）。

公法学専攻

◇博士（法学）

目指すべき人材（物）像

法学研究科公法学専攻博士課程（後期）は、公法学の各分野において専門的できめ細かな指導を行うことを通じて、研究者あるいは法曹界・行政・企業などにおける法律実務家として広く学界で活躍する人材の養成を目指す。また、博士学位取得に至るまでの体系的な学修システム（博士学位取得プロセス）を運用するなかで、大学や研究機関において研究活動を行う研究者の育成はもとより、実務家として活動しながらも研究機関に所属する研究者と積極的に連携した研究活動を展開し、その学術的成果を広く社会に還元させることの出来る有為な人材を育成することを目的とする。

◆ディプロマ・ポリシー

- ・公法学の各分野において、独立した研究者としての活動の基盤となる、高度かつ専門的な知識を獲得し、各研究領域における調査・研究手法に習熟している（知識・技能）。
- ・独立した研究者として活動することを可能とする、法理論的研究、比較法的研究、法史的研究、法政策学的研究など、研究テーマに求められる適切な研究手法を駆使できる（思考力・判断力・表現力）。
- ・対象とする法律問題について、理論面・実践面において独創的かつ有意義な情報の発信ができる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

（編成・運営方針）

- ・公法学の各分野において、高度かつ専門的な知識をもち、独立した研究者としての独創性のある研究を行うことができる研究能力を修得するためのカリキュラムを定める。

（学力の三要素 / 領域）

- ・担当教員による専門的かつ、きめ細かな指導を受けることを基本とする。一方で、後期課程に進学する以前に、法学系の研究論文作成のための基礎的なトレーニングを受けていない者に対しては、第1年次に、法学系の研究論文作成のトレーニングとして「論文演習Ⅰ（判例研究）」「論文演習Ⅱ（外国法研究）」の履修を求める（知識・技能）。
- ・博士学位論文執筆のための体系的なシステム（博士学位取得プロセス）を提供する。また、第2年次には、論文題目審査を受けることにより、研究テーマの学術的価値を適切に表現する力を身につける（思考力・判断力・表現力）。
- ・いずれの学生に対しても、修了までの3年の間には、広い学問的視野の涵養が目的とされる中で様々な研究手法を修得する機会が与えられる「総合演習（法学）」の履修が求められる（主体性・多様性・協働性）。
- ・さらに博士学位論文の執筆過程では、学位論文審査予定の教員が同席して実施される中間報告会で執筆の現状などを報告し指導を受けることが義務付けられている。この過程で、自分の考えを主体的かつ論理的に表現する能力を身につける（主体性・多様性・協働性）。

法学研究科

博士課程
(後期課程)
法学研究科

政治学専攻

登録コード		研究指導科目	担当者
科目	クラス		
		政治学特殊研究	
		政治学史特殊研究Ⅰ	
		政治学史特殊研究Ⅱ	
40310302		国際政治学特殊研究Ⅰ	村田 晃 嗣
40310303		国際政治学特殊研究Ⅱ	大矢根 聡
40310306		国際政治学特殊研究Ⅲ	鷺江 義勝
40310308		国際政治学特殊研究Ⅳ	浅野 亮
40310401		行政学特殊研究	市川 喜崇
40310501		政治史特殊研究Ⅰ	力久 昌幸
		政治史特殊研究Ⅱ	
		国際政治史特殊研究	
40310801		政治文化論特殊研究	西澤 由隆
		政治経済学特殊研究	
40310803		政治過程論特殊研究	森 裕城
40310901		論文	

登録コード		授業科目	単位	担当者	期間	週時間	登録方法
科目	クラス						
40310881		論文演習 (政治資料・データ研究)	2	鷺江 義勝	春学期	2	
		総合演習 (政治学)	2	(本年度休講)			

履修方法

- ・指導教員の指示により、専攻分野の研究指導を受けてください。
 - ・指導教員の「特殊研究」は必ず登録してください。
 - ・「論文演習 (政治資料・データ研究)」の履修対象者は、政治学系の研究科を修士論文の合格をもって修了していない学生 (政治学系の研究論文作成のための基礎的なトレーニングを受けていない学生) とします。
 - ・「総合演習 (政治学)」は、単位修得を修了要件とはしませんが、3年間のうち (修了まで) に単位を修得することが望ましい。
 - ・博士学位取得プロセスについての詳細は、『法学研究科履修の手引き』を参照してください。
 - ・大学院学則により、博士課程の後期課程に3年以上在学した方は、次の学期から授業料および教育充実費が半額となります。ただし、学部または大学院の授業科目 (特殊研究および論文を除く) を履修する場合は、この適用を受けることができませんので、留意のうえ科目登録をしてください。
- ご不明な点は、今出川キャンパス教務センター (法学研究科) までお問合せください。

私法学専攻

登録コード		研究指導科目	担当者
科目	クラス		
40330101		民法特殊研究Ⅰ	神谷 遊
40330102		民法特殊研究Ⅱ	上田 誠一郎
40330103		民法特殊研究Ⅲ	川和 功子
40330104		民法特殊研究Ⅳ	梶山 玉香
		民法特殊研究Ⅴ	
		民法特殊研究Ⅵ	
40330201		商法特殊研究Ⅰ	山下 友信
40330202		商法特殊研究Ⅱ	釜田 薫子
40330203		商法特殊研究Ⅲ	川口 恭弘
40330204		商法特殊研究Ⅳ	船津 浩司
40330205		商法特殊研究Ⅴ	木下 孝治
40330206		商法特殊研究Ⅵ	伊藤 靖史
40330301		経済法特殊研究	瀬領 真悟
40330402		国際私法特殊研究Ⅰ	高杉 直
40330403		国際私法特殊研究Ⅱ	林 貴美
40330404		国際私法特殊研究Ⅲ	高橋 宏司
40330501		民事訴訟法特殊研究Ⅰ	川嶋 四郎
40330502		民事訴訟法特殊研究Ⅱ	岡田 幸宏
40330503		民事訴訟法特殊研究Ⅲ	中西 正
		民事訴訟法特殊研究Ⅳ	
		民事訴訟法特殊研究Ⅴ	
40330602		知的財産権法特殊研究	井関 涼子
		比較民法史特殊研究	
		中国家族法史特殊研究	
40330802		労働法特殊研究Ⅰ	土田 道夫
		労働法特殊研究Ⅱ	
40330901		論文	

登録コード		授業科目	単位	担当者	期間	週時間	登録方法
科目	クラス						
40330881		論文演習Ⅰ (判例研究)	2	伊藤 靖史	春学期	2	
40330882		論文演習Ⅱ (外国法研究)	2	濱 真一郎	秋学期	2	
40330891		総合演習 (法学)	2	新井 濱 林 井関 伊藤 勝山 川崎 川嶋 川和 木下麻 西村 瀬領 土田 田中 横田	春学期	2	

履修方法

- ・指導教員の指示により、専攻分野の研究指導を受けてください。
 - ・指導教員の「特殊研究」は必ず登録してください。
 - ・「論文演習Ⅰ (判例研究)」と「論文演習Ⅱ (外国法研究)」の履修対象者は、法学系の研究科を修士論文の合格をもって修了していない学生 (法学系の研究論文作成のための基礎的なトレーニングを受けていない学生) とします。
 - ・「総合演習 (法学)」は、単位修得を修了要件とはしませんが、3年間のうち (修了まで) に単位を修得することが望ましい。
 - ・博士学位取得プロセスについての詳細は、『法学研究科履修の手引き』を参照してください。
 - ・大学院学則により、博士課程の後期課程に3年以上在学した方は、次の学期から授業料および教育充実費が半額となります。ただし、学部または大学院の授業科目 (特殊研究および論文を除く) を履修する場合は、この適用を受けることができませんので、留意のうえ科目登録をしてください。
- ご不明な点は、今出川キャンパス教務センター (法学研究科) までお問合せください。

公法学専攻

登録コード		研究指導科目	担当者
科目	クラス		
40360101		憲法特殊研究Ⅰ	勝山 教子
40360102		憲法特殊研究Ⅱ	松本 哲治
		憲法特殊研究Ⅲ	
		憲法特殊研究Ⅳ	
40360201		行政法特殊研究Ⅰ	佐伯 祐二
40360204		行政法特殊研究Ⅱ	佐伯 彰洋
40360203		行政法特殊研究Ⅲ（税法を含む）	田中 治
40360205		行政法特殊研究Ⅳ	横田 光平
40360206		行政法特殊研究Ⅴ	黒坂 則子
40360302		国際法特殊研究Ⅰ	新井 京
40360303		国際法特殊研究Ⅱ	浅田 正彦
		国際法特殊研究Ⅲ	
40360401		刑法特殊研究Ⅰ	川崎 友巳
40360406		刑法特殊研究Ⅱ	松原 久利
40360403		刑法特殊研究Ⅲ	十河 太郎
		刑法特殊研究Ⅳ	
		刑法特殊研究Ⅴ	
		刑法特殊研究Ⅵ	
40360405		刑事学特殊研究	川崎 友巳
40360409		刑事訴訟法特殊研究Ⅰ	河村 博
40360410		刑事訴訟法特殊研究Ⅱ	洲見 光男
40360501		法哲学特殊研究Ⅰ	濱 真一郎
40360502		法哲学特殊研究Ⅱ	浅野 有紀
40360601		法思想史特殊研究	戒能 通弘
40360602		法制史特殊研究Ⅰ	西村 安博
		法制史特殊研究Ⅱ	
40360604		法社会学特殊研究	木下麻奈子
40360901		論文	

登録コード		授業科目	単位	担当者	期間	週時間	登録方法
科目	クラス						
40330881		論文演習Ⅰ（判例研究）	2	伊藤 靖史	春学期	2	
40330882		論文演習Ⅱ（外国法研究）	2	濱 真一郎	秋学期	2	
40330891		総合演習（法学）	2	新井 濱 林 井関 伊藤 勝山 川崎 川嶋 川和 木下麻 西村 瀬領 土田 田中 横田	春学期	2	

履修方法

- ・指導教員の指示により、専攻分野の研究指導を受けてください。
 - ・指導教員の「特殊研究」は必ず登録してください。
 - ・「論文演習Ⅰ（判例研究）」と「論文演習Ⅱ（外国法研究）」の履修対象者は、法学系の研究科を修士論文の合格をもって修了していない学生（法学系の研究論文作成のための基礎的なトレーニングを受けていない学生）とします。
 - ・「総合演習（法学）」は、単位修得を修了要件とはしませんが、3年間のうち（修了まで）に単位を修得することが望ましい。
 - ・博士学位取得プロセスについての詳細は、『法学研究科履修の手引き』を参照してください。
 - ・大学院学則により、博士課程の後期課程に3年以上在学した方は、次の学期から授業料および教育充実費が半額となります。ただし、学部または大学院の授業科目（特殊研究および論文を除く）を履修する場合は、この適用を受けることができませんので、留意のうえ科目登録をしてください。
- ご不明な点は、今出川キャンパス教務センター（法学研究科）までお問合せください。